

<p>スクール・ミッション (本校の存在意義や社会的役割を目指す学校像)</p>	<p>世界で輝くアスリート、地元で輝く人材を育てる学校 世界的なトップアスリートをはじめ、スポーツに関する充実した学びを広く生かして活躍する人材を育成するとともに、進学や公務員・民間就職等の多様な進路に対応した地域密着型の教育活動を展開し、地域振興を支える人材を育成します。</p>	
<p>スクール・ポリシー (三つの方針)</p>	<p>グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に関する方針)</p> <p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針)</p> <p>アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに関する方針)</p>	<p>・基礎、基本の徹底から応用に至る様々な学力の習得。 ・論理的思考力や課題解決力の育成。 ・自分のイメージや考えを言語化し、表現する・伝える力の育成。 ・スポーツを科学的に捉え再現性を高められる能力の育成。 ・各部活動に於いて専門的な高い知識と技術力を持った生徒の育成。</p> <p>・「将来の道」を見つけ、希望進路の実現を可能にする、年次に応じたクラス選択制。 ・私立大学や医療系学校、及び公務員や就職試験に対応したカリキュラムの編成。 ・地元自治体や地元企業への参画やインターンシップの実施を通じた、「協働」と「経験」重視の人材育成。 ・「教養科目」、「専攻スポーツ実技」、「スポーツ科学トレーニング」、「スポーツ文化講座」等の多様な学習の場を提供。</p> <p>・進学、就職など幅広い進路を検討し、その実現を目指して継続した努力ができる人。 ・将来、社会の一員として地域で活躍したいという強い意志と熱意を持つ人。 ・スポーツを愛し、将来スポーツの普及、発展に貢献しようとする意欲を持った人。</p>

学校運営計画(4月)				
学校運営方針	昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
<p>【成果】 記念式典を始めとする創立百周年記念行事の成功は生徒にとって自信をつける貴重な機会となった。コロナ禍の工夫を生かした学校行事の実施や、地域活性化に向けて城島総合支所と協働する「MJCプロジェクト」の本格始動は、生徒が主体的・探究的に課題に取り組む場を創出する上で意義あるものとなった。コースの専門性を生かした連携活動、継続的な中学校訪問やHP、SNS等を通じたスピード感ある広報活動を行うことができた。</p> <p>【課題】 創立101年目となる本年度、より一層魅力ある学校づくりに取り組んでいく。そのため、より大胆な発想で個々の生徒に応じた教育を効果的に提供し、生徒自身が考え、意見を発信する場を創出するための学校づくりを行う。そのことにより本校の課題である生徒募集に繋げる。</p>	1 学習意欲向上による学力向上	2 自律・主体性の習得	3 表現力・伝える力の育成	
	4 進路実現に向けたキャリア教育の充実	6 地域に開かれた学校づくりの推進	7 「スポーツの三瀬」の充実・発展	8 自他の人間性を認めることによるいじめの撲滅
	・生徒の実態把握に努め、能力に応じた教育を効果的に提供する。 ・AL・ICT教育を推進することにより、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に努める。 ・観点別評価を取り入れた透明性のある評価基準を確立し、学習意欲の向上を図る。	・自ら考え、判断し行動して目標達成や課題解決をすることができる力を身に付ける。	・多様な場で成果発表を多く経験することで、プレゼンテーションやフィードバックの力を養う。	・3年間を見通した教育活動を実施するためロードマップを活用し、計画的にキャリア教育を推進する。 ・各分掌・学年が連携することにより、第一希望の進路実現に努める。
	・HP、X(旧Twitter)、Instagram等の広報活動を充実させるとともに、地域と協働し、魅力ある学校づくりに努める。 ・定期中学校訪問等、戦略的広報活動に取り組み、学校全体で生徒募集に努め、地域との交流を活性化させる。 ・地域行事等にボランティアとして参加するとともに、地域参加型の学校行事を企画し、地域に開かれた学校づくりに努める。	・「する・観る・支える・知る・極める」ことを自分で考え、行動する生徒を育成する。 ・スポーツ文化コースの特色を活かし部活動の競技力向上及び、学校全体の活性化と充実振興に努める。 ・健康教育と安全教育を推進する。	・心を育む道徳教育の充実を図り、人としての使命感、責任感を持った生徒を育成する。 ・SC、SSW、PTA等と情報の共有化を図り、いじめや不登校の防止に努める。	

A

自己評価				学校関係者評価			
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート(外部アンケート等)の結果等	評価(3月)		結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価 学校関係者評価委員会からの意見
特色ある学校づくり	地域に根ざした発信力ある学校づくりの推進	地域行事等に参加し、地域社会に貢献するとともに、魅力ある地域を作るための提案や、魅力の発信の仕方などについて、高校生ならではの視点を生かせる協働的な学習活動の場を積極的に作っていく。また、地域に根ざす学校の在り方を模索するとともに情報発信の強化に努める。	学校満足度調査(10月)「地域や地元企業との交流がある」88.6% 地域行事・ボランティアへの参加人数94名(のべ人数) 地域に公開する参加型イベント「クリスマス会」(2年生「総合的な探究の時間」の取組)実施	A	A	地域行事がほぼ従前どおりに行われ、ほとんどの行事へ参加することができた。また、「総合的な探究の時間」における「MJC(三瀬・城島コラボレーション)プロジェクト」で地域活性化に向けたイベントを企画・実施でき、プロジェクト2年目となる今年度、新たな取組へと発展させることができた。 次年度は地域行事への参加について、早期の日程調整や募集方法の工夫により、多くの生徒が参加可能となる環境作りを行う。また、地域行事の企画・運営に生徒が関わられるよう連携の深化を図る。	A ○地域の大きなイベントである城島酒蔵びらきでは、未成年ということに配慮し、生徒ボランティアスタッフには展示ブースの案内をしてもらった。高校生がボランティア参加していると来場者の雰囲気などがなごむと感じた。今後運営する側においてもよりよく参加してもらえる方法を工夫したい。その他の地域行事も含め、現在進めている地域連携をさらに発展させていくことを期待する。
	「スポーツの三瀬」を中心とした魅力ある学校づくりと活性化の推進	スポーツ教室等、地域との交流を深めることをとおして、スポーツを「する・観る・支える・知る・極める」生徒の育成を図り、「スポーツの三瀬」の充実・発展を推進する。 共生社会を視野に入れた実習等魅力あるカリキュラムの工夫と実践をとおして、生徒の学力向上と進路実現を図る。	スポーツ教室実施4回(オリビアン講座を含む)	A	A	広報をスムーズに行えた結果、スポーツ教室の参加者が増加した。今後も参加日程、内容の充実を検討する。 小中学校での実習は好評で複数の近隣校から要望をいただいた。本校生徒の成長にもつながり、連携活動として定着している。今後も継続する。	A ○生徒募集も踏まえ、地域等との連携を深め、地域からの信頼を深めてほしい。
	コースの目標を明確にし、大学・医療系学科や公務員・就職試験に対応できるようなカリキュラム開発を行う。	授業アンケート(7.12月)「説明等が分かりやすい」94%	授業アンケート(7.12月)「工夫されている」94%	A	A	生徒の様々な進路希望に対応できる、無駄のないカリキュラム開発を進めている。 次年度も同様に年2回実施し、生徒が自らの学習を振り返る機会にもする。 次年度はICTを活用した表現活動に関する職員研修を実施する。 生徒への周知が十分でない面があるため、次年度は年度当初に全科目で周知する。	A ○少人数での授業が実施される等、カリキュラムも細やかに展開され、生徒にとって恵まれた環境である。
検定等の合格率向上のための支援	学年と連携し、検定等の実施を毎学期行う。 資格取得率の向上を目指し、生徒に対する支援強化期間を設定する。(資格取得率90%以上)	学校満足度調査(10月)「検定の結果に満足している」84% 1年生の情報検定取得率100%	A	A	授業内で日本情報処理検定試験を実施し、多数の合格者を出すことができた。次年度もこの取り組みを継続する。実用英語技能検定についても意欲のある生徒に案内して合格者を増やす。		
式典・諸行事	式典・諸行事の円滑な運営	式典・諸行事において、生徒が主体的に行動することができるよう企画運営する。	式典・行事での生徒会による運営(一部又は全部)100%	A	A	式典や諸行事は、各分掌との連携を取り、円滑に進めることができた。 各専門委員会担当を中心に、計画的に活動を実施した。更なる活性化を目指したい。 広報課が主導し、各行事の内容や活動が効果的にわかるPTA新聞を作成した。	A ○適切に計画が実施されている。
PTA活動 同窓会活動 後援会活動	PTA活動の活性化	魅力あるPTA活動内容を計画し、より多くの参加者を募る。また、活性化を図り、本校の魅力を保護者からも広めてもらう関係作りを目指す。	計画した各委員会行事・会議等の実施率100%	A	A	式典や同窓会を通して連携を深めるよう努めた。今後もご支援をいただける環境を作りたい。	
	同窓会・後援会との連携	同窓会および後援会との連携を深め、支援をいただけるよう環境を作る。	式典等への同窓会役員等出席率100%	B	B		
広報	学校案内パンフレットの内容の充実	紹介内容の精査を行い、各コースの特色がより伝わる内容にする。 写真を含めたレイアウトの工夫を行い、多くの人に配布を行う。	生徒会役員、部活動生徒、特選クラス生徒を中心に、各コースの特徴を出せるような内容に刷新	B	B	普通科一般、特に特選クラスの活動内容や学習状況等の掲載に努めて行く必要がある。 写真やイラスト等を盛り込み、分かりやすい広報誌(パンフレット等)の製作を行った。	A ○多くの中学生が高校を選ぶ際に参考にするのは、高校の楽しさに加え、卒業後にどのような将来へつながるかである。例えば大学進学者のその後を追跡調査し、どんな職業に就くことができるのかについて、中学生が多くの情報を得る学校ホームページやパンフレットにわかりやすく掲載するとよい。中学校の先生方の進路指導においても参考となり、生徒募集に効果的である。 ○高校のホームページや学校パンフレット等について、他校のものと比較したり、中学生のニーズを捉えたりしながら、さらにわかりやすく注意をひくようなものにする努力を続けてほしい。 ○広報活動先についても広げていくよう期待する。
	HPやSNS、広報誌等における情報発信の充実	HP・SNSでの更新を月4回以上行い、学校情報の発信を行う。 学校行事等の様子を動画にまとめ、生徒の実際の様子をHP・SNS等に随時配信する。 広報誌の発行の回数を増やし、紙媒体での学校情報を提供する。	学校HP及びSNS等による情報発信件数 昨年約3倍 学校HP83件 Instagram60件閲覧数194,290(のべ) 生徒作成投稿数 10件 広報誌等の発行15回	A	A	現在のHP掲載数は55本を超えており、機会ある毎に情報発信に努めた。 学校Instagramへの投稿本数も60件となり、多くの人に見ていただいた。 広報誌の発行回数は昨年と比較して2倍以上となり、中学校訪問等で活用した。	
	日等を示した学校ポスターを作成し、中学校などに掲示してもらう。	広報紙・ポスター等を三瀬高校オープンスクール、学校説明会(Mizuma de Night)等で中学校生徒に配布	広報紙・ポスター等を三瀬高校オープンスクール、学校説明会(Mizuma de Night)等で中学校生徒に配布	B	A	次年度は学校ポスター・学校パンフレットともにより早期の作成を目指す。	
	生徒募集に役立つ、よりインパクトある作品・アイテムを作成する。	中学校で高校説明会の全てにおいて出身生徒によるプレゼンテーション実施	中学校で高校説明会の全てにおいて出身生徒によるプレゼンテーション実施	A	A	本年度生徒募集のコンセプト「みんな明るく、元気で爽やかに!」に基づき、より本校生徒の姿が伝わるものとなるように工夫した。 学校Instagramの内容と閲覧数の分析を行い、次年度の投稿改善につなげる。特に閲覧数の多い生徒作成の動画投稿を継続する。	
	より多くの人に見てもらえるようにHPやSNSなどの閲覧数など多面的に分析し、傾向を把握し、活用の改善を適宜行う。	データ移設方法を改善	データ移設方法を改善	A	A	タブレットChromebookの活用など、生徒の作品を掲載できた。	
	中学校訪問回数を増やし、情報交換を重ね、さらなる信頼関係を構築し生徒募集に繋げていく。	全職員による中学校訪問実施3回	全職員による中学校訪問実施3回	A	A	本年度は全職員で3回、広報課で5回以上中学校訪問を行い、生徒確保に尽力した。	
	ポスター配布等、目的を明確にした効果的な訪問とする。	広報課職員による訪問実施6回	広報課職員による訪問実施6回	A	A	中学校訪問では学校パンフレット及び広報誌を全ての中学生へ配布できた。	
	本校生徒の魅力の発信	進路相談事業や中学生体験入学で本校生徒の活躍の場と中学生とのふれあいの場を設けるなど、学校の魅力が伝わるよう工夫を行う。	オープンスクール及びスポーツ教室実施10回	B	B	広報活動によりオープンスクールへの参加数は昨年の2倍、学校説明会では3倍となった。 次年度は全職員による実施等により、中学生との触れ合いの機会を増やすよう工夫する。	

生徒指導	学校行事や生徒会活動の支援	学校行事を通して、生徒会執行部を中心に各種委員会と連携を図る。	年間2回の生徒総会で全校生徒に向けて執行部及び各種委員会の目標及び課題を報告	A	A	各行事において、生徒会執行部と諸委員会との連携により円滑に行事運営を行うことができた。	○適切に計画が実施されている。生徒指導上生じる様々な課題等については引き続き丁寧に対処していくことを期待する。
		生徒会と代議員、委員会と部活動生徒等を繋ぐ機会を設け、全校生徒で「1人1役」を考え取り組むことを目指す。		B			
	部活動支援の充実	外部指導者の活用や外部施設等の利用等により、環境整備を行う。	運動部3種目で外部指導者を活用 施設設備点検実施3回(毎学期)	B A A	A	3部活動で外部指導者を活用しているが、体育部での顧問負担が大きい状況である。 教員の負担等軽減のためには、実態にあわせて部活動見直しが必要である。 各学期ごとに施設設備点検を実施することができた。	
健康管理 安全管理	生徒保健委員会の充実と活性化	生徒の健康面や安全面に対する関心や意識を高めるため、「保健だより」の内容について創意工夫を図る。	各学校行事において保健委員による健康観察を実施	B	B	次年度は保健委員会で学校行事や時期に応じた内容を検討し、「保健だより」を作成していきたい。	○適切に計画が実施されている。
		「保健だより」の発行に向けて、保健委員が主体的に活動できるよう促す。		B			
	安全点検の実施	各学期ごとに安全点検を実施する。	各学期ごとの定期点検に加え、臨時点検を実施	A	A	各学期ごとに安全点検を実施することができた。	
教育相談	課題を抱える生徒への、柔軟できめ細かい対応	課題を抱える生徒の情報を教職員間で共有し、SCの活用で早期対応に努める。生徒の配慮すべき事情について、養護教諭と連携し、関係職員と情報交換を行う。	教育相談委員会実施15回うちスクールカウンセラーの参加100%	A	A	教育相談委員会後、その後の対応や情報共有がスムーズとなる環境づくりを行う。	○適切に計画が実施されている。
		特別支援教育の充実	支援が必要な生徒を把握し、個別の支援計画・指導計画の作成と教育相談を実施する。 スクールカウンセラーによる職員研修実施	A A	A	教科指導・担任・学年間の連携を更に密なものとし、生徒の健全な発達に資する環境を整える。 SCによる研修等を継続して行い、職員の多様な生徒に対応する力を高めていきたい。	
環境美化	生徒美化委員会の充実と活性化	学校行事に合わせ、全校生徒で校内美化に努めるための計画を提示する。	各学校行事において美化委員会による清掃活動実施	A	A	清掃活動の立案について、学校行事に合わせた計画的なものとし、より効果的な清掃活動となるよう改善していく。	○適切に計画が実施されている。
		美化強化週間の実施を通して、清掃への生徒の意欲を高める。	美化委員による放送での呼びかけ実施	B	B		
進路指導	生徒に高い志を持たせるキャリアプランニング力の育成	探究活動と進路ガイダンスを通して生徒のキャリアプランニングの基礎を構築する。	各ガイダンス毎の振り返りシート(ポートフォリオ)で「自分の進路について考える機会になった」回答生徒多数	A	A	各学年とも進路ガイダンスを複数回実施できた。振り返りのフィードバックも行う。 Classi自体は各学年とも活用できた。学習課題配信機能の活用も充実させる。	○適切に計画が実施されている。生徒の成長に資するよう今後も工夫を続けてほしい。
		Classiを活用し、各学年・分掌と連携して生徒が自ら学ぶ姿勢を伸ばす。		A			
		模擬試験等を踏まえ、学習到達度に応じた学習指導を行う。	就職、進学に対応した模擬試験実施12回 外部講師によるガイダンス講座(公務員対策など)実施8回	B A			
キャリア教育の推進	外部支援活用による希望進路実現に向けた取組の充実	模擬試験等を踏まえ、学習到達度に応じた学習指導を行う。	就職、進学に対応した模擬試験実施12回 外部講師によるガイダンス講座(公務員対策など)実施8回	B A	B	模擬結果分析から生徒各個人の学習への取組連結は改善の余地があり、Classiを更に活用する。 外部講師によるガイダンスは生徒の進路意識向上につながった。振り返りを進路学習につなげる。	
		就職希望者向けの外部講師によるガイダンスや講座を通して、進路実現に向けた主体性を育む。					
探究活動の深化	総合的な探究の時間における探究活動の充実	3年間を通したMJCプロジェクトの実施計画を、前年度を踏まえて改善しながら確立を図る。	地域と連携した探究活動の振り返りシート(ポートフォリオ)で「地域の実情に対する理解が深まった」回答生徒多数	A	A	生徒が課題発見・解決能力を伸ばせる活動を充実させ、進路実現につなげる。 地域に協力してもらう連携形態から地域と協力し地域活性化につなげる活動形態に発展させる。 探究活動における地域連携が円滑に行えるよう市と協議しながらコーディネート方法を検討する。 課題発見から課題解決に向けた取組の過程で協議の時間を確保し、協力的な活動を深める。	○適切に計画が実施されている。地域連携を今後も進めてほしい。
		地域との連携を密にし、主体的で実践的な探究活動にする。		A			
		久留米市と連携した地域活性化の探究活動を実施し、地域の活性化に主体的に取り組める枠組みにする。	発表後の自己評価(ポートフォリオ)により、発表内容、スライド作成、発表の仕方等の振り返りを実施	A			
	課題研究成果の共有による課題対応能力の伸長	探究成果を共有する機会を設け探究活動が協力的な取組になるようにする。		A			
研修	教師の資質向上を図る研修の推進	本校の課題を踏まえた研修を計画・実施する。また、研究授業や授業参観週間を活用して教科指導力の向上を図る。	職員研修実施6回うち新規の研修内容設定1割、ICT関連研修2回	A	A	職員研修や研究授業への職員の取組は積極的であった。校務の状況から、実施回数に限られているので内容の精選が必要である。	○適切に計画が実施されている。
		生徒の実態や課題、社会情勢に応じた教材を用い、人権・同和教育授業の指導案を作成し、効果的な授業を実施する。	特設授業(講演含む)全学年で実施3回 全ての授業で感想文記入	A	A	各学年とも、生徒の実態に合った教材を見つけ、組み合わせる計画を練り、工夫を凝らした授業の実施ができた。	
コース	一般教養コースの特色化	地域貢献活動や他との交流を通して社会性を育成するために、積極的なボランティア参加を促す。	学校満足度調査(10月)「地域や地元企業との交流がある」88.6%	A	A	学校内でボランティア参加を促しているが、生徒数の減少も相まって、ボランティア参加者数が減少傾向にある。学校全体で、ボランティアに参加する仕組みを作りたい。 校内全体でICT機器の日常的な使用ができており、積極的な活用がなされた。 引き続きより良い情報共有を行うとともに、校内情報ネットワーク推進委員会、ICT支援員等と連携し、提示を中心とした活用から、生徒の表現力育成や協力的な活動を促す活用となるよう方法を模索していく。 各教科と各分掌等との連携を強化し、より深く検討を行い、改善につなげたい。	○適切に計画が実施されている。 ○スポーツに関しては中学生の競技人口も見据えながらターゲットを焦点化し、具体的に特色化を行う必要がある。
		各教科の授業においてICT機器を活用した学習を実施する。	令和2年度より授業等におけるICT機器の活用を推奨 学校満足度調査(10月)「授業の内容は充実しており、よく理解できる」92.1%、「希望進路(進学・就職)の実現に向けて、適切な進路指導と支援が行われている」96.1%	A			
		進路部や各教科と連携して、生徒のGTZを向上させる。	外部の実力診断テスト実施後、結果・指導改善について職員に共有する研修・会議を実施	B			
	スポーツ文化コースの充実	小学校との連携事業を実施する。(城島・三瀬・犬塚小学校)	連携事業・中学校1校においても実施 生徒感想・取組状況良好 スポーツ教室 重点6部活動の実施率100%	A A	A	本校生徒と小学校のどちらも成長できた。中学校においても実施できた。 スポーツ教室の実施は一定の評価を得ることができた。実施時期について来年度は検討して、もっとよりよいものにしていきたい。	○体力テスト補助実習は高校生にとっても成長につながる充実した取組である。このような機会に高校生自身ももっと三瀬高校をアピールできるとよい。
事務部	教育環境の整備充実	教科指導書や教材等を計画的に購入する。(教務部と連携)		A	A	必要な教科指導書等は、分権予算の組替等により今後とも計画的な整備に努めたい。 教室エアコン設備の修繕やソフトボール場防球ネットの補修等、教育活動に影響が大きい事項を優先しながら対応を行うことができた。次年度以降も同様に取り組みたい。 今年度は、広報活動の更なる充実改善に向けて公用スマートフォンを導入することが出来た。また、図書館管理システムを年度末迄に整備予定であり、教育活動の面でも改善を図れた。	○学習する環境の整備が適切に実施されている。今後もよりよい環境づくりに取り組んでほしい。
		施設の不具合箇所は優先順位を付し計画的に補修・改修を行う。	果費予算および教育振興基金等予算(私費)の効果的な執行を実施	A			
		生徒の教育活動や学校の広報等が円滑に進むようICT機器等の保守管理を行う。		A			
	生徒・職員の安全安心の確保	定期的に学校施設の安全点検を実施し、事故等の未然防止に努める。(保健環境課と連携)	職場巡視の実施(R6.10月、R7.2月)	A	A	安全点検の地、書段から危険箇所等がないか職場巡視に努めている。また、職員からの不具合箇所等の連絡に対しては、環境整備課との協議や果施設課への予算要求等速やかに対応を行っている。 例年どおり計画的な整備に努めている。	
	円滑な事務処理の推進	職員への諸連絡は今後も学校ポータルサイトを活用し周知もれを防ぐ。 旅費計算支援ソフトを活用し旅費事務を効率的に行う。	各業務担当の主任・副主任による相互チェック体制を強化し、円滑な事務処理を目指す。	A A B	A	これまでどおりの活用ができています。 今年度定員減員(△1名)となり相互チェック体制の強化の他、時期によって業務分担の見直しを適宜行うことで円滑な事務室運営を目指した。	

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・生徒主体の学校行事の実施及び探究活動の深化等により生徒の活躍の場面をさらに増やし、自分の考えを自信をもって表現できる生徒の育成につなげる。
・少人数であることを強みとして生徒一人一人に寄り添う指導を行い、生徒が将来の夢を見つけ、第一志望進路の実現を可能にする学校づくりを進める。
・中学生や地域のニーズを的確に捉え、学校の特色を効果的に発信することにより、生徒募集につなげていく必要がある。
・限られた条件の中、伝統を革新する柔軟な発想で魅力化を図り、地域から『必要とされる学校』となるよう新しい三瀬高校を創造していかなければならない。

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は A:適切である B:概ね適切である C:やや適切でない D:不適切である
A	
評価項目以外に関する意見	
食堂が撤退となり、公共交通機関の利便性についても地域の状況が厳しい現状である。そちらの側面での工夫も必要である。	